

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第84号

2025(令和7)年1月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

洗練された優れた道具

— 綿繰り作業を快適に —

畑で収穫したばかりの綿花を実綿と書いて「みわた」、あるいは「さねわた」と読みます。その実綿から種を取り出す作業が綿繰りです。文字通り「わたくり」と読みますが、「さねくり」と呼ぶこともあるそうです。

本誌ではこれまでに綿繰りについて3度、取り上げています。第5号(2017年5月)では「命取りの機械— 便利さが私たちにもたらすもの」と題して、明治16年に発行された足踏み式綿繰り機械の広告記事と、齢89の父の綿繰りに要する作業時間について。第40号(2020年4月)では「赤わたと青わた— 綿の品質と繰り綿の品質」と題して、当方で栽培している和綿の赤木種と青木種の繰り綿の歩留り(ぶどまり: 実綿における種と繊維の比率)の比較と品質の違いについて。第53号(2021年5月)では「実わた目方の事— 2020年産の繰り綿の歩留りについて」と題して、大蔵永常の『綿圃要務』(天保4年、1833年刊)や、佐貫尹『続・木綿伝承』(2009年刊)に記されている繰り綿の歩留りに関する記述と、当方で栽培している和綿各種の実際の歩留りの比較について。前者は『日本農書全集』第15巻(農山漁村文化協会、昭和52年)376頁、後者は『続・木綿伝承』(染織と生活社、2009年)26頁をご参照ください。

ちなみに、第53号掲載のデータによれば当方栽培の2020年産和綿の歩留りは赤木種26.2、青木種29.8、河内綿(千塚)30.6、伯州綿(境港)30.7、真岡綿25.1でした。

参考までに幡原隆治『日本棉花栽培法』(丸山舎、昭和9年刊)に掲載されている繰綿歩合(歩留りと同意)は日本棉(36種平均)36.2137、朝鮮棉28.3110、支那棉38.7133、陸地棉34.2000。さらに日本棉の品種ランキングでは1位紫蘇棉3号40.54、2位白藤46号39.53、3位青木39.30、…36位茶棉28.60となっています。単位は%。同書195頁「繰綿歩合の変異」参照。『綿圃要務』では26%前後で「中綿」、28%前後で「上綿」としていますから、驚異的な数値と言えます。検査方法にもよるかもしれませんが、栽培技術の工夫、向上を目指した結果であるかもしれません。

綿繰り作業に要する時間は、和綿の実綿100gに対して当時89歳の父は平均約30分、現在65歳の私は平均約15分です。綿繰り作業を快適に行うコツは、2本のローラー部分の隙間を調節するクサビの微調整を怠らないことです。また、差し込む実綿の向きも重要です。収穫時の形状が残っている場合は、小判型になっている実綿を、頭から差し込みます。特に洋綿アブランドの場合はこの点を意識するだけで作業効率は格段に向上します。YouTube動画では、「自宅学習教材、綿の一生」シリーズとして、#05「綿繰り基本編」、#06「綿繰り上級編」で詳しく紹介しています。

実綿から種を取り出す作業を一粒ずつ素手でやっておられた方が、初めて綿繰り機を使用されるとみなさん様に感動されます。それほど、木製の綿繰り機は、単純でありながら洗練された優れた道具です。そして、これをいつ、どこの国で、誰が考案したのかが知りたくなります。角山幸洋『綿繰具の調査研究』(関西大学出版部、2001年刊)、前田亮「綿繰り車の種類と動作」『はた』第10号(日本織物文化研究会、帝塚山短期大学、2003年発行)は、そうした疑問に迫る論考です。 綿繰り機(稲垣機料製) →



----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和6年12月26日～令和7年1月25日)

埼玉県1、山梨県1、大阪府1、兵庫県1、岡山県1

【H.A.M.A. 木綿庵】(令和6年12月26日～令和7年1月25日)

メールを含む各種相談件数4、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数9組20名



《綿の収穫量の記録 2024年産》 和綿+洋綿 =11,923g

2024年(令和6年産)の綿花総収量が確定いたしました。以下のとおりです。

◇和綿

1、大和山辺綿：赤木種	2, 3 1 2 g
2、大和山辺綿：青木種	3, 1 7 2 g
3、河内綿その他、和綿混合	4 3 1 g
4、コットンボール実綿換算	3 3 1 g (150個 10個22.1g×15)
和綿合計	6, 2 4 6 g

◇洋綿

5、アブランド	1, 3 8 3 g
6、スーピマ交雑種	3, 1 1 7 g
7、コットンボール実綿換算	1, 1 7 7 g (250個 10個47.1g×25)
洋綿合計	5, 6 7 7 g

和綿+洋綿 = 1 1, 9 2 3 g



《綿の栽培記録 2024》－ 令和6年度版 その10 －

年末から年始にかけてひきつづき綿木引きと綿木焚きを進めました。2025年1月25日時点で圃場に残る綿木は、9号畑と12号畑の超長繊維綿各1畝、10号畑の和綿の1畝だけとなり、今回をもって2024年の栽培記録を終了します。

今季は夏の異常高温と雨不足が収量に大きく影響したように思われます。とくに8月の渇水は綿の実の生長、結実には決定的であったように感じています。「綿作にはそれほど水を必要としない」とも言われますが、「綿作には、稲作ほど農業用水を必要としない」(山口之夫『河内木綿と大和川』清文堂出版、2007年刊、8頁)というだけで、適切な灌水は必要不可欠です。これまでは8月には定期的な大雨や夕立があり、その自然降雨の恩恵に与っていたことを思い知らされたシーズンとなりました。写真は上段左から10号畑の最後の綿摘み3枚と牛乳パック栽培の根の様子。下段は左から9号畑の収穫の様子1枚と、1号畑の最後の収穫と綿木焚き。



【研修等の記録】

- 令和6年11月26日 天理やまのべ木綿庵の「和綴じ綿掛け布団」が天理ブランド品に認定される
- 令和7年 1月07日 全国コットンサミット天理大会に向けて第4回打ち合わせ会議(天理市農林課)
- 令和7年 1月13日 福島俊宏氏より天理COTTON(アブランド)の繰り綿400gをお預かりする
- 令和7年 1月16日 全国コットンサミット天理大会の案内フライヤーについて相談を開始する
- 令和7年 1月21日 全国コットンサミット天理大会の特設WEBサイトについて相談を開始する
- 令和7年 1月22日 全国コットンサミット天理大会に向けて第5回打ち合わせ会議(天理市農林課)